上海日本人学校浦東校　学校概要

前上海日本人学校浦東校　教諭
北海道赤平市立赤平中学校　教諭　鎌　田　早　耶

キーワード　ロックダウン時の生活、在外教育施設、中国、日中交流、生活について

赴任校の概要（2025年8月22日現在）
上海日本人学校浦東校
URL：https://srx2.net.cn/sjs-pudong/
児童生徒数：小学部223人　中学部437人

1 中国の概要

中国国旗：赤地に5つの星を配したもので、五星紅旗（五星红旗、拼音：Wǔxīng hóngqí）と呼ばれる。赤色は革命を、黄色は光明を表す。中国共産党が 1949年に建国した社会主義の大国で、人口の94%を占めている漢族をはじめ、モンゴル族、ミャオ族、チベット族など55の政府認定民族によって構成される多民族国家である。人口は約14億人。 国名・中華人民共和国の「中華」は「世界の中心にあり、もっとも華やかな文明を持つ社会」と言う意味を持ち、もともとは黄河文明が起こった河南省地域のことを表した言葉だった。

上海市では、毎年のように高層ビルが新たに建てられ、その賑わいは世界の大都市と肩を並べる。特に2010年の上海万博を契機に進められた地下鉄網の整備など新たな都市計画により、現在もなお著しい発展を続けている。

(1) 中華思想

中国は文明が進んだ世界の中心であるという考え方が中華思想である。古代より、周辺諸国は中国を慕い、使いを送る（朝貢する）。その際中国は、周辺諸国が持ち込んできた貢物に対して自国の国力を誇示するため、その数倍から数十倍もの価値のあるものを褒美として与えていた。

近年の日中関係も影響して、中国人は反日感情をむき出しにしていると感じている日本人は少なくない。実際に生活をして日本人だからといって不利益を被ったり、誹謗中傷を受けたりすることはほとんどない。ただ過去の歴史により反日感情を抱いている中国人も0（ゼロ）ではないことも事実だ。その一方で中華思想の名残として、中国では遠方から訪れた人々に対して相手をもてなす精神が今もなお根付いている。それは私たち日本人であっても同じである。生活をしているうちに、地下鉄で子どもに席を譲ってくれたり、優しく声をかけてくれたりする場面がよく見られる。

(2) 言語

①共通語について

公用語である中国語（北京語をもとに作られた普通語）が主に使われている。広大な国土をもち55の民族が暮らす中国では、地域や民族によって異なる方言、言語が使われる。上海では、上海語が使われている。ラテン系の音声に近い印象である。

②英語について

中国でも学校教育でも英語を学んでいるので、20代ぐらいの人であれば英語で会話をすることができる。

しかし、ホテルや駅といった公共の場ではほとんど英語が使えない。住んでいる場所にもよるが、私が住んでいた場所では、英語はほぼ通じなかった。同僚が住んでいたマンションでは住民の7割は西洋の方など、場所によっても大きく違う。

③文字について

現在、中国で使用されている漢字は簡体字と呼ばれる簡易版の漢字である。何を意味しているのかが何となく分かるので、日本人には学習しやすい言語である。

(3) 気候と風土

上海は宮崎県とほぼ同緯度に当たります。日本と同じように梅雨の時期は3週間くらい続く。上海の梅雨の時期は毎年6月中旬頃から7月10日前後くらいまでで梅雨明けすることが多い。そして、梅雨明け後には真夏に突入して、気温も湿度も高い高温多湿の時期になる。特に、夏期の暑さは厳しく、7月と8月の平均最高気温は32度～33度、（※梅雨の季節が明けたら毎日のように日中38度まで気温が上がる）平均最低気温も26度以上と非常に高くなる。上海の季節は、日本と同様に、四季が存在し、春と秋は体感温度も寒くなく暑くなく、比較的過ごしやすい時期である。反対に、夏は高温多湿のため体感温度が高くなり非常に暑く感じる。逆に、冬はシベリアからの気流が流れ込むため、緯度の割には気温が下がり、年間を通して最も寒い1月の平均気温は5度以下まで下がる。1月の平均最低気温は1.8度で、氷点下まで下がる日も時々ある。 春と秋は短いが、春にはサクラ、秋にはキンモクセイが咲き誇り、季節の移ろいを感じさせる。また、4月から6月にかけては、上海に多く植樹されているプラタナスの花粉が舞う。上海周辺は、広大な平野が広がっており、山を目にすることはない。また、海からも遠いため、一般的には川魚が多く食べられる。しかし、日本食レストランも多いため、海魚の刺身も食べられる。海水浴や山歩きはできませんが、ランニングや散歩がしやすい環境である。

(4) 治安

①治安状況

中国は社会主義体制の下で各種犯罪に対して厳しく対処している。街のいたるところに監視カメラが設置されている。地下鉄に乗る時には、セキュリティ・チェックを通らなければ電車に乗れないなど、観光地や、銀行などには多くの警備員が配置されているので、犯罪は起こりにくいと言える。しかし、日本人という外国人として様々な面で細心の注意を払う必要はある。日本人への接し方はとても友好的だが、過去に不幸な戦争があったことなどをよくわきまえて、中国の人々の立場になって、無神経な言動を慎むなどの注意が必要だった。また、交通法規や交通マナーの違いについては大きく違う。

②交通状況

自動車は右側通行で、赤信号でも原則右折可である。タクシーやバスはスピードを出すため、急停止には気を付けなければならない。歩道が広く綺麗に整備されているが、バイクは普通に走っている。電動バイクが多く、音がほとんどしないため近付いていることに気付かないこともあるので注意が必要である。

(5) 防疫体制（令和４年度について）

①入国制限

入国に関しては、令和４年度派遣教員のうち11人は予定通り4月に渡航できたが、1人は4月渡航が延期になり7月の渡航になった。

②PCR 検査・渡航

出国直前に日本で3回（出発7日前、出発3日前、出発24時間以内）、入国直前に空港（中国）でもう1回、隔離施設で4回の計8回 PCR 検査を受ける。

③当日の動き

- 渡航の前日夜20時までに健康コード（中国語で書かれた、3回のPCR検査の結果とアンケート）を申請。青色にならないと、渡航できない。（日本で一人ひとり確認される。）
- 朝、空港でチェックインをしてからグランドスタッフの説明のもと、電子健康報告を入力し、QRコードを取得。
- PCR検査で鼻と喉をグリグリされる。
- 荷物を持って進むと最後に隔離用のコードの申請をする場所に。隔離場所申請のQRコードを取得。
- 全員集まってから、隔離場所申請に渡航者全員でパスポートを渡す。バラバラに渡すと別のホテルになってしまう可能性があるので同じグループであることを伝えた。
- 飛行機から降りたら、3時間近く1度も座れずに検査に並び続ける。
- その日、12時に上海に到着して、隔離ホテルに到着すると19時を過ぎていた。夜ご飯がでなくて驚く。
- 部屋に水がないということで一同焦る。中国語が堪能な赴任者がいたので、その方が隔離スタッフに掛け合う。その日のうちに、なんとか水を購入。銀行を開設していないため、支払い能力がないのでそのような人には水があげられないということ。
- 隔離施設については当局より指定されるので、自分で選ぶことはできない。

④隔離

上海市は、国外から入境する全ての人に、ホテルなどの隔離施設での14日間に加え、自宅で7日間の隔離生活を求めていた。しかし、実際に行ってみるとすぐに上海のロックダウンにより、すべての都市機能がなくなった。

4月3日	渡航・隔離開始（14日間）
4月6日	オンライン会議で業務開始
4月17日	隔離終了・マンション隔離1週間
4月26日	とうとう、お水が底をつく。普通の水道水を沸かして飲む。
4月30日	1学年120名ほどを相手にオンライン授業を始める。　※初めて国語を教える。
5月1日	外で初めて散歩→筋肉痛に
5月12日	マンションの小区内のスーパーへの外出許可がおり、初めて買い物に行く。
6月24日	初出勤　※1人でもコロナが出たら、地区すべて14日間隔離の恐怖と戦う　※2日に1回PCR検査をしないと、道路以外どこにも行けない、入れない。
6月28日	体格検査（中国に入国したら全員うける健康診断）
8月31日	プレ登校 ・学校登校時は、毎日PCR検査を実施すべしと中国当局からお達しあり。 ・学校では、教職員・児童生徒本人とその家族を含めて、毎日の健康報告が義務付けられた。 ・健康報告が出ていない児童生徒は、電話で確認が取れるまで入校することができない。 ・発熱者が3人出た時点で、学級隔離→次の日から学級閉鎖（変更多々あり）
9月1日	生徒のみの入学式 ・中国当局の開校条件を満たしながらの学校生活が始まる。
12月14日	ゼロコロナが終了し、感染爆発　※PCR検査の義務がなくなる。 ※各国を出張で回っている人たちの隔離がなくなると、感染者が激増し、オンライン授業に切り替えた。
12月21日	2学期終了　※このタイミングで中学3年生の3分の2が日本へ帰国し、受験に備える。受験後も隔離があるため、卒業式もオンライン参加になる。12月13日を最後に会えなくなった生徒が大勢いる。
3月1日	卒業式
3月6日	終業式

2 上海日本人学校浦東校

(1) 浦東校の概要

浦東校は、上海日本人学校虹橋校の児童数が増大し、受け入れ困難になったため、新しく上海に設置された日本人学校の第2キャンパスである。平成28年度には、上海日本人学校設立30周年を迎えた。平成8年6月に虹橋校が完成して開校し、平成17年度には2,288名まで急増した。そのため平成18年度に浦東校が新設され、虹橋校（小学部のみ）と浦東校（小学部と中学部）の2校に分かれた。更に平成23年に日本人学校初の高等部が設置され3校合わせて上海日本人学校と称される。令和6年度、6月17日現在、全校児童生徒数は741名だが、毎日のように転出入があるため、数は変動する。年度末には、中学部は30名程度、人が入れ替わる。卒業時には、中学1年生から在籍している生徒は3分の1程度になる。

平成16年度から、国際交流学習を各学年で行う。特に、小学部3年生～中学部3年生の「総合的な学習の時間」を「上海タイム」と呼び、交流、体験、見学などの時間も活用し、中国あるいは上海でしか経験できないようなことを通して、その深まりや広がりを探っている。また、小学部に各学年裁量の時間「ドラゴンタイム」が設けられ、個に応じた指導や基礎・基本の充実、応用力の育成などに活用している。その他にも自主作成副読本「上海」を活用した授業や現地校との交流、各種の行事等において、中国理解、日本理解、国際理解、自己理解、人間理解を念頭においた教育活動を行っている。

(2) 特色ある教育、国際性豊かな児童生徒の育成

○英会話・中国語の授業

週に1時間英会話と中国語の授業が設定されている。それぞれ最初の授業で習熟度別クラス分けテストが実施され、英会話は1クラスを4コースに（小学部のみ）、中国語は2クラスを3コースに分けて学習している。少人数クラスでの外国人講師による充実した指導が行われている。

○中日スピーチ大会

○全学年で現地校との交流

○人権講和

○小中併設のメリットを生かした取り組み：絵本読み聞かせ交流（高等部）、中3と小1の遊びで学ぶ交流

○行事：中学部体育大会、小学部運動会、小・中学習発表会など

○日本人としてのアイデンティティの確立：朝読書、百人一首大会、書初め

○特別活動：小4からクラブ活動、中学部　週1回部活動

3 現地生活

(1) 生活

○上海の大気汚染

日本に比べるとよくない。特に冬場は、石炭を多く使うこともあり大気が悪くなる。体が慣れずに咳が止まらなかったり、喉の痛みを感じたりする人もいる。しかし、上海では政府の施策によりここ数年で大気汚染はずいぶん改善されている。

○水道水

中国の水道水をそのまま飲むことはできない。実際に飲んでいる人はほとんどいない。上海の水は安全基準に達しているが配管の老朽化があり、さらにミネラル含有が多い硬水は、飲むとお腹をくだしたりする。し

かしながらお腹の強い人は飲んでも問題ない場合があるようだ。

〇公衆トイレ

普通のコンビニエンスストアなどには、お店の利用者が使えるトイレはない。しかし、いたるところに公衆トイレが存在する。きれいにしてくれる方が常駐しているトイレもあれば、入るのがはばかられるトイレもあるが、おおむね使用するのに抵抗感はない。

〇買い物の仕方

基本的には、アプリ決済の支付宝（アリペイ、ジーフーバオ）や微信支付（ウィーチャットペイ、ウェイシンペイ）が普及しており、スーパーやコンビニ、露店などほぼすべての買い物で使うことができる。現金支払いもできるが、100元札などは偽札が混ざっていることもある。ネットショッピングが主流で、アプリ淘宝（タオバオ）では、様々なものが安く手に入る。お店の商品をその場でスキャンして検索する画像検索機能があり、探す手間が省ける。日本と同じ商品や似た商品を同じぐらいの値段や安い値段で手に入れることもできる。

〇外食

レストランで食事をする際、多くの場合は QR コードを読み取って注文し、会計をする。もちろん、席に着くとメニューが渡されるお店もある。その際は、注文する料理が決まったら、店員を呼ぶ。水は（言わないと）出てこない場合もあるが、お茶（中国茶）はサービスされるところもある（頼まなくても運ばれてきて、40円程度かかることもある）。テーブルオーダーのレストランでは、支払いもテーブルのQRコードをスキャンして支払いをする。日本のウーバーイーツと同様のサービス（ワイマイ）も簡単に利用でき、アプリから注文することが可能。料理をしない人は、ほとんどこのワイマイを利用していた。料理以外のものも家まで届けてもらえる。

〇その他

上海ではここ数年間、街を挙げて市民の意識やマナー向上に取り組んだ結果、これまでとの印象が変わったという声も聞こえる。また、上海に住んでいる人たちは親切な人が多い。困ったことがあると言葉は通じないが、何かと助けてくれる。

(2) 交通事情

タクシーは上海市内に多く走っており、利用しやすく便利だ。最近はスマホのアプリからタクシーを呼ぶことができるようになっている。アプリからタクシーを呼ぶことで、口頭で伝えなくても目的地まで着く。支払いもアプリでできる。中国は交通事情が異なり、タクシーの運転が大変荒いことがある。警察の強化週間中は、シートベルトを締めていないと罰金を支払うことがある。

地下鉄は、上海市内を網の目のように地下鉄の路線が整備され、しかも渋滞がないので生活には便利である。1号線から21号線まである。料金は区間によるが、近場であれば100円以下で利用できる。セキュリティ・チェックがあり、危険物を持ち込ませない工夫をしている。

公共バスも、市内を網の目のように走っており、約500の路線がある。学校から少し歩いた場所にあるバス停に各マンション付近への路線があり、通勤に利用できる。時刻表は基本的にない。バスにGPSがついていて、それをアプリで確認することができ、バス停にいつ、どこのバス停を通過し、何分に到着するのかが表示される。乗車料金は主に40円で、30キロ以上距離があっても80円程度。2時間ほどかかる場所にいっても100円かからない程度である。

自転車は、スマホのアプリを使ってレンタルできる「支付宝（アリペイ）」や「美団（メイトゥアン）」などがよく使われている。自転車のバーコードにスマホをかざすだけで簡単に利用できる。料金は利用時間や距離等によるが、30円～70円程度である。

(3) 医療・健康情報

○現地の医療制度・事情

中国の医療機関は、原則として国営である。総合病院の他、小児科、耳鼻咽喉科、精神科、歯科などの専門病院もある。最近は医療改革により一部民営の病院も出てきたが、個人開業の病院は大変少なく、通常は総合病院を利用する。また、中国の医療は、大きく「西医（日本と同じ診察・治療方法）」「中医（漢方薬を用いる治療）」「針･灸」「推掌（ツボを刺激する）」「気功」の5つに分けられます。上海市内には、外国人窓口（外賓窓口）をもつ病院が多くあり、留学経験を積んだ優秀な医師や、日本人医師、看護師がいる。外国人ということで料金が諸物価に比べてかなり高めだが、24時間体制や対応の丁寧さからみて納得できる。

4 上海市について、上海市・中国に住んで感じたこと

(1) 中国は「小さな地球」

国土が広いので、場所によって食べるもの、生活習慣が大幅に違うので、体つきも南部の人と北部の人とでは違いがある。また、言語も各地の方言があるほかに、広東語や上海語のように元の普通語とは音声が大きく変わる。たとえば、貴州という内陸の地域では、普通語、なまりのある普通語、その土地の言語の3つを使い分ける。日本人からすると、関西や九州の方言よりも強く、ほぼ別の言語を話している感覚である。多民族国家であるため、基本的に人に対して寛容である。風習や文化が違うことが当たり前なので、「常識的に考えて…」という考えの幅が日本よりとても狭い。あまり気にしない人が多い。

また、世界の各地で見られる様々な地形や風景を中国国内で見ることができる。汚い、空気が悪い、というイメージが強かったが、そのような地区は一部で、自然豊かな地形や、上海のような大都会もある。

未開拓の地区がまだまだたくさんあり、まだ、人がほとんど踏み入れたことがない場所が多くある。2015年以降も多くの遺跡が発掘されていて、世界遺産の兵馬俑では、まだ発掘が続いていた。

(2) 中国に住む日本人の感覚

上海日本人学校浦東校に通う生徒は、日本に戻ったら中国がいいところだということを伝えたいと話す生徒が大勢いる。日本のメディアで語られる情報は悪いことが多いので、テレビの情報を鵜呑みにしてはいけないということを実感している。中国に住む日本人の生徒たちは上海に住んでいて、日本人だからという理由で嫌な思いをすることは、ほぼない。　※敏感な日5/4、7/7、9/3、9/18、12/13

(3) 歴史教育・生涯教育

中国の博物館は素晴らしい。長い歴史をわかりやすく国民に伝えるため、過去の悲しい出来事を忘れないために、工夫を凝らした博物館が建てられている。また、寿命が伸び続けているなかで学習を続けるための対策が始まっている。図書館に行くと、大人が勉強しているため、席も有料になっている場所もある。将来介護をすべき人を減らすために、運動公園がいくつもあり、そこで運動をしたりダンスをしたりしている。いくつになっても学び続けることの大切さを感じた。